

※全体の概要

当社は「高齢者見守りシステム」の実績を基に、平成23年度より知的障害者施設向け「見守りシステム」の開発に着手し、平成24年に製品化をおこなった。

本システムの目的は、夜間支援員等は控え室に居ながらにして、入居者の生活状況、即ち離床、離室、睡眠時呼吸、転倒、てんかん発作等をセンサー情報として捉え、従来の安眠を妨げる「状況確認の入室」に替えることで、入居者のプライバシーを最大限確保しつつ緊急時に円滑な対応を図れるようにすることである。異常の検知はもとより施設内複数の部屋の状況把握を重点に置いたシステムを目指している。今年度、市販のセンサーで異常など複数の機能を実現した試作ユニットを製作した。センサーと人とのインターフェイスである画面についても人間工学的手法で見やすく、分かりやすく改良した。平成27年度の改良製品化を計画している。

※試作した機器またはシステム 1 居室内状況表示画面

画面のデザインコンセプトとして、即座に居室内の状況を把握できることを目的に

- ・ 分かり易い画面
- ・ 見やすい画面
- ・ メンタルモデルを構築しやすい画面

を開発した



図1 部屋選択と異常表示画

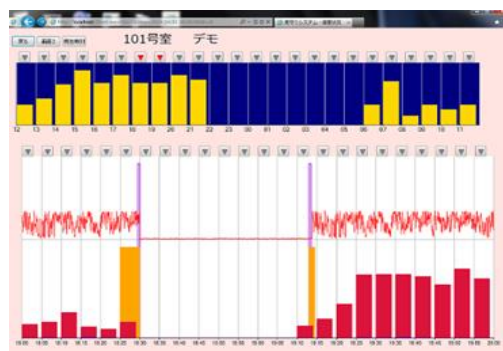


図2 状況表示画面

※ 試作した機器またはシステム センサーユニット

ローコスト化と設置の容易化を図るため、人感センサーとドップラーセンサー及びサーバとのインターフェイスを同一ユニットに収めたセンサーユニットを開発した。サーバとは無線 LAN で通信する。

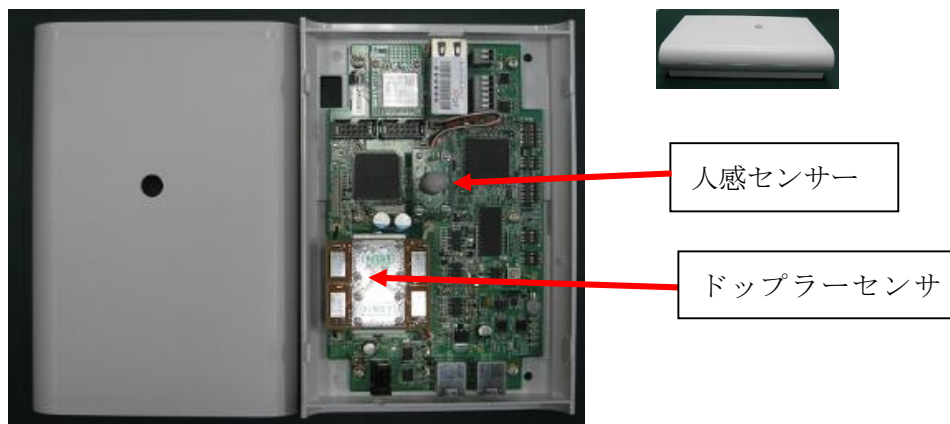


図3 コントローラ内蔵センサー